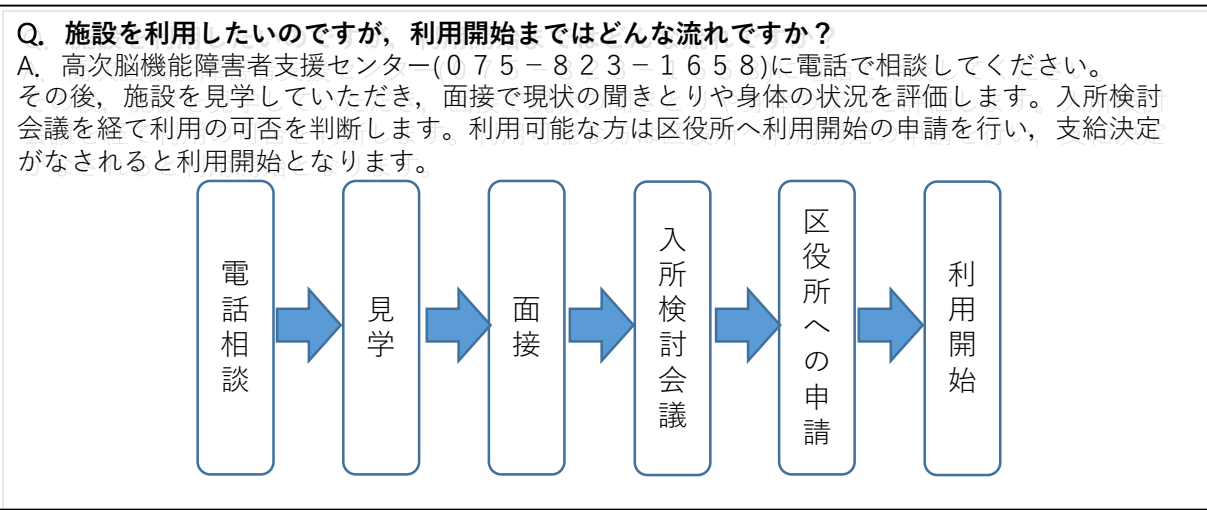




Q. 施設を利用できるのは？
A. 高次脳機能障害と診断された方です。機能訓練は身体障害者手帳(肢体)が必要です。

Q. 提供しているサービスは？
A. 自立訓練の機能訓練(定員25名)と生活訓練(定員15名)があります。また、通所が困難な方やこれらの訓練を受けるにあたり入所したほうが訓練効果が期待できる方は、施設入所支援(定員30名)が利用できます。短期入所も実施しています。

Q. どんな流れでプログラムは進みますか？
A. 右図の流れに沿って目標を立て、それぞれの時期に応じたプログラムを実施していきます。

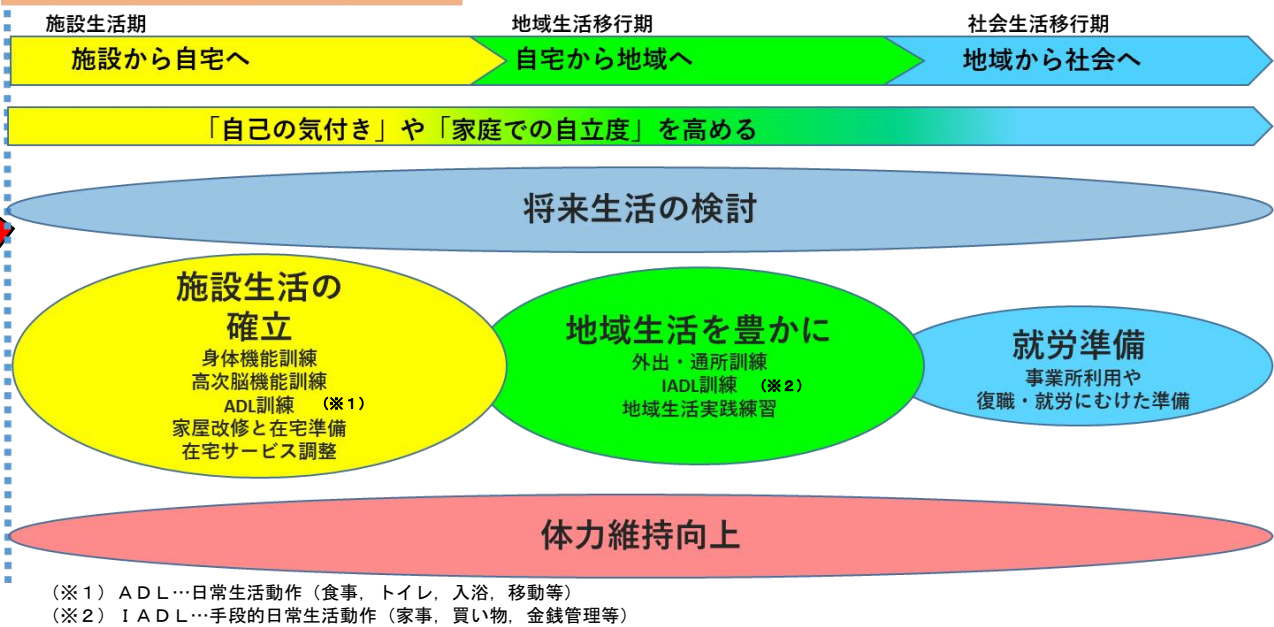


Q. 今までどんな方が利用されましたか？
A. 右の利用ケース紹介をご覧ください。他に、「家の外に出る機会が減ってきて体力が衰えてきたので、もう少し動けるようになりたい。」といった希望で利用されていた方もいます。

Q. 移乗に介助が必要なんですが...？
A. 腰持ち介助で臀部挙上が可能であったり、下衣の上げ下げなどが部分介助レベルであれば対応可能です。その他については、以下の表をご覧ください。ご不明な点をご相談ください。但し、全介助が必要な方は十分な対応が困難なため、ご利用いただけません。

動作	利用可能な状況
移動動作	歩行(杖や歩行器、下肢装具の使用は問わない)もしくは車椅子駆動にて施設内移動自立レベル。
移乗動作	見守りや部分介助レベル。※手すりやベッド柵などの使用は可能。
トイレ動作	排便・排尿共にコントロールされている方。夜間の尿器使用は可能。 ※突発的な便失禁や尿失禁に対しては対応可能。 ※おむつの使用は、着け外し・後始末ができる方。
食事動作	箸、フォーク、スプーン、介助箸などを使用して自力摂取が可能な方。 ※食塊をスプーンに乗せたり、フォークに刺したり、支援者が直接口元に運ぶなどの介助には対応できません。
入浴動作	風呂場(脱衣場、浴室)内の移動は、シャワーキャリーで介助可能。 ※集団浴では、階段昇降ができない方はシャワー浴のみの対応になります。
更衣動作	見守りや部分介助レベルの方。 ※全介助の場合は対応できません。

障害者支援施設の支援の流れ



各時期でのプログラム例



利用ケース紹介

ADLの向上と共に在宅復帰し復職したHさん 40代女性 脳出血 右上下肢機能障害2級 言語機能障害4級

移動能力とコミュニケーション能力の向上を目標にプログラムを実施	1年後には公共交通機関の利用が可能になり自宅からの通所に切り替えました。この頃から職場と復帰に向けて話し合いを開始	懸案事項であった雨天時の通勤や職場の人とのコミュニケーションの取り方も獲得されたため、試験就労を経て、利用開始1年6箇月で原職へ復帰
---------------------------------	---	--

関連機関と連携することで復職したYさん 50代男性 くも膜下出血 精神保健福祉手帳2級

発動性や注意力低下に対して脳トレや認知リハを実施し、在宅生活で動きにくくなった身体を動かすため、体育館での運動プログラムも参加	利用開始4箇月で自ら復職への意欲を示されるようになったため、職業センターへ相談	職業センターでのプログラムにも参加。連携しながら職場への説明や環境整備を働きかけることで利用開始8箇月で復職
---	---	--

単身在宅生活をめざしたKさん 40代男性 脳出血 右上下肢機能障害2級 精神保健福祉手帳2級

単身生活の自立に向け施設で入所しながら更衣訓練や入浴動作訓練、歩行訓練などに取り組み、10箇月後には施設内は杖歩行、ADLは入浴は監視で行うがその他は自立。	家屋改修を行い、公共交通機関の利用や家事動作練習にも取り組み、外泊練習を重ねたのちに、ヘルパーを利用しながら単身生活の開始と同時に通所へ移行。同時にデイサービス利用を開始。デイサービスに慣れ今後の社会生活拡大の足がかりを作れたため、1年2箇月で当施設の利用を終了。
--	--

最後に

高次脳機能障害のある方は、地域や家族以外の方との接点が少なくなる傾向があります。そこから一歩踏み出す時の「きっかけ」として、当施設のご利用をご検討ください。
職員一同、お待ちしております。